持続可能な「支援案」を作成せよ！

実施校：明徳学園相洋中高等学校　教諭名：大廣光文

対象	高校1年
科目	地理B
時間	8時間構成

参考資料

田中治彦・三宅隆史・湯本浩之(2016)『SDGsと開発教育』，学文社.

単元名

アフリカ州　―ミッション 持続可能な「支援案」を作成せよ！

目標

その1　アフリカについての地誌的理解を深めるとともに地理的見方・考え方を身につける：【思考・判断，知識・理解】
その2　地図や資料等から読み取った情報を自分の言葉で理解し，伝えたい内容を他者に伝える表現力を高める：【資料活用の技能，表現】
その3　SDGsの考えを理解して現地の人の立場になって支援のあり方を考え，2030年までに実現できるように取り組む：【関心・意欲・態度】

期待できる学習効果

その1　相互貢献の視点から，協働してテーマに取り組むチーム力の高まり
その2　相手軸からよりよく伝えるための工夫や内容を伝えるための言語技術等の表現力の向上
その3　「誰のための支援か」を考えることで，支援を受ける側にとっての本当の持続可能な支援とは何かを探究する力の育成

授業内容や授業

本単元における目標
新詳地理B(帝国書院)における現代世界の地誌的考察(第１章 ６節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ)において，「ミッション」を設けることで，アフリカ州への支援のあり方を探究する学習をねらいとした
◎ミッション：アフリカ州にある国の中から1か国を任意に選び，その国の支援計画をSDGsの視点からワークシートを用いて立案する
〇主な学習内容と進め方
●導入　本単元を構成する深い問いの設定，基礎・基本となる知識の共有
【第1時】 ゼロベースの生徒たちを前提に丁寧にSDGsを説明し，本単元を貫く深い問いを設定する
●展開
【第2時】 SDGs17のゴールから1つを選択し，その視点からアフリカ州の国への支援案をつくる
【第3時】『未来を変える目標』を活用して，SDGs17から169の小窓へと視点を深める
【第4時】 発表するチームを作り，1週間の準備期間を設け，17の視点からの中間発表をチームで行う
【第5時】 未完結の場合は中間発表の続きを行い，終わり次第個人とチームで「振り返り」を行う。
【第6時】 17の視点からの探究の際に生徒が取り上げたアフリカ州の国同士でクロスカップリングをする
例. 中央アフリカ共和国　(1「貧困をなくそう」×　16「平和と公平をすべてに」)
【第7時】 クロスカップリングで作ったペアで，最終プレゼンテーションの準備を進める
【第8時】 2人1組のペアがそれぞれ持ち時間5分程度でプレゼンテーションを行う

声・表情の工夫	声が教室全体に届き，表情がいきいきとしていたか
ジェスチャー・間	身振り手振りなど工夫したり，効果的に「間」をとっていたか
内容 ①	現地の人にとって役立つ支援だと納得することができたか
内容 ②	説得力があり，実現可能な支援案であったか
内容 ③	チームでの連携が取れていて，良い発表になっていたか

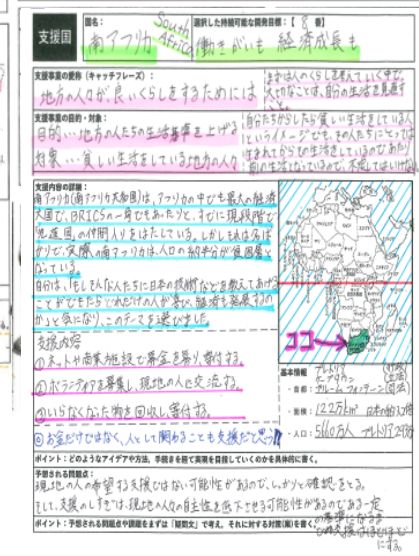
※採点は，発表するチーム以外が上の観点から，〇・△・× で採点シートを使って採点

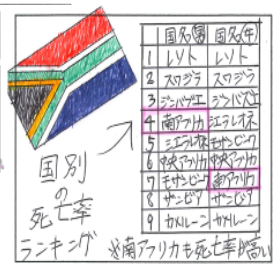
持続可能な「支援案」を作成せよ！

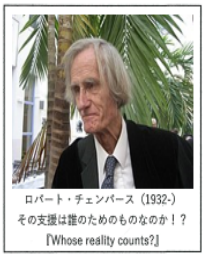
実施校：明徳学園相洋中高等学校　教諭名：大廣光文

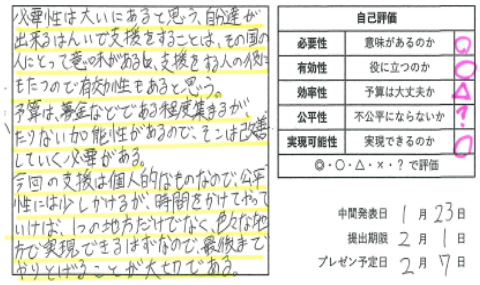
授業の様子

生徒のワークシート作成例①
【中央アフリカ共和国】









生徒のワークシート作成例②
【南アフリカ共和国】

子どもたちの反応・感想

アンケート分析　―開発教育における学習の4段階（田中モデル）

●【振り返り】

「SDGsはただ一方的な支援をするのではなく，支援したいと思う人々と同じ目線になって考え 協力することが大切だと知りました。支援は簡単に言葉ではすませていけないものだと知れたので良かったです(高1男子)」「支援案は口ではなんとでも言えるけど，改めて行動していかないといけないと思います。じっと考えてる時間で感染症や食べ物がない人々は苦しんでいるから行動していくべきです。大人になったら現地に行って，話してどうしてほしいか一緒に考えたいです(高1男子)」「誰も置き去りにしないということを踏まえた上で考えることができた。これをふまえ，また1から考えていきたい。将来SDGsを大学でもやっていきたいと思えた。(高1女子)」

上に紹介した振り返りは，単元終了後に行ったアンケートの一部である。アンケート結果を「田中モデル」を活用して分析したが，第２段階【問題に対して基礎的な知識を得る。ときに単純な行動を起こす】に留まる生徒が少なくなかった。８時間という時間を使って取り組んだこともあり，第２段階未満の理解に留まった生徒は，２クラス(86名)合わせても12名(14.1%)と少数であった。しかし，関心の喚起や知識の獲得だけはなく，第３段階となる【問題の複雑性を理解する。具体的な行動はとりにくくなる。それでも関心をもち続ける】まで探究できた生徒はごくわずかに限られた。とはいえ，将来の進路選択に，SDGsをテーマとして選ぼうと考えた生徒が現れたのも事実である。今後もSDGsを取り入れた授業実践に力を入れ，生徒を積極的に巻き込んでいきたい。